



プロバスだより

第338号

2024年1月11日発行
編集・発行 情報委員会

東京八王子プロバスクラブ
創立 1995年10月18日
2023～2024年度 テーマ

楽しみながら学び合い、支え合おう

臨時総会

日時 令和5年12月14日(木) 12:00～
場所 八王子エルシィ
出席者 32名
(会員総数46名、欠席10名、休会3名)

1. 開会 土屋例会委員長

只今より臨時総会を開催します。

2. 会長挨拶 持田会長

臨時総会の議長の指名を受けました持田です。
総会に先立ちまして、残念ですが訃報の報告が二つございませう。

宮崎浩平会員が11月10日亡くなくなりました。87歳でした。また、東山榮会員が11月28日、93歳にて亡くなくなりました。

ご両名にご冥福を祈りたいと思います、皆さんご起立して頂き黙祷を捧げたいと思います。よろしくお願ひします。「黙祷」。

この後、臨時総会になりますが、皆さまのご理解・ご協力を頂きたいと思います。総会の後、例会がありますので、挨拶は改めてその時にさせていただきます。

3. 議長選任

恒例により会長が議長を務め、持田会長が議長席につき、会員総数と出席者数を確認、本総会が有効に成立したことを宣言し、議事に入った。

4. 書記・議事録署名人の選出

書記に土井俊玄会員、議事録署名人に大野教子会員、山本通陽会員が選任された。

5. 議事

議案は配布済なので、項目のみを掲載。

第I号議案「2023年度小・中学校合唱祭」特別会計予算(案)」

第II号議案「東京八王子プロバスクラブ会則の改訂(案)」

以上の提出議案に対して、各役員の説明が行われた。特に質疑はなく、全員一致で承認された。

6. 議長解任

第338回例会

日時 令和5年12月14日(木) 12:30～14:00
場所 八王子エルシィ
出席者 32名 出席率74%
(会員総数46名、欠席10名、休会3名)

1. 開会 土屋例会委員長

第338回例会を開催します。本日の出席者数は32名、出席率は74パーセントです。

2. 会長挨拶 持田会長

臨時総会で二つの議案は原案通りご承認されました。ご協力を頂きましてありがとうございます。

さて、現在世界を見ると、中東情勢においては大変不安定なキナ臭い状況が続いております。

また、国内の政治を見ても、あつてはならないことが表面化し、政治不信が広がっております。そんな中ですが、わがクラブは安定した活動を予定通りに進めたいと思います。

中でも、会員同士の交流、親睦を深め、クラブ活動への意識がより前向きになって諸活動へ積極的に参加してもらえようようにしたいと考えております。



そのため、コロナ禍により数年中止していた新年会やクラブ内の親睦会などを適時開催していく予定です。同好会活動もコロナ前の状態に戻し、活性化を図ります。是非、皆さんの積極的な参加をお願い致します。

また、既にご案内してあります、3月20日開催の合唱祭については今期のメイン・イベントですので、それぞれの決められた役割を果たして頂き、それが地域貢献につながり、当クラブの存在価値を高めることにもなると理解をして頂きたいと思っております。よろしくご協力をお願いします。

3. ハッピーコイン披露

塚本副会長からハッピーコイン 16 件の披露がありました。(5～6 ページに掲載)

4. パースデーカードの贈呈

12 月生れの会員に池田会員手作りのパースデーカードが贈られました。



(写真左から、飯田会員、会長、齋藤会員)

5. 卓 話

版画について

野口です。私が版画に興味を持ったきっかけは、知人から頂いたのが始まりでした。

今日、家から持ってきました版画は全部で 100 枚程です。

版画については皆さんご存知のことと思いますが、普通は版木に表現する意匠を彫り込んで、その上に絵具やインクなどを塗り、用紙を乗せ、バレンで擦って用紙に写し取るのが基本です。棟方志功の版画などでお馴染みのことと思います。

ところが、版画と言っても種類が多く、木版画と



野口 浩平

かシルクスクリーンとかの方法もあるようです。

詳しいことは、別の機会にお話することにし、私が収集した版画のいくつかをご紹介します。

初めにお見せするのは、関野潤一郎さんの版画です。青森県出身の版画家で、木版画、銅版画、石版画、油絵と幅広い活動をされている方です。入手先は文化出版局のギャラリーです。

次は、深沢幸雄さんです。山梨県出身で、メゾチントを中心とした作品を制作する、日本における戦後銅版画の第一人者と言われています。多摩美術大学の名誉教授もされた方です。

三番目は山本容子さんです。埼玉県出身の銅版画家で、柔らかく繊細な描線を描く独特の色使いが特徴です。入手先は町田版画美術館です。

四番目は柄澤齊さんです。栃木県出身の現代木口木版画の第一人者です。入手先は町田版画美術館です。

五番目は野田哲也さんです。熊本県出身で、東京芸術大学の教授を勤めた方です。作品の技法は木版と謄写版によるシルクスクリーンです。入手先は現代版画展のチャリティーです。

六番目は黒崎彰さんです。滋賀県出身の日本版画界を代表する版画家の一人です。浮世絵の伝統木版画技法を用い、紙という素材を生かし造形するペーパーワークまで幅広い作品があります。入手先は現代版画展のチャリティーです。

最後は木版画で才能を高く評価された八王子出身の版画家城所祥さんです。作品は木口木版画が中心となります。入手先は以前八王子で営業していたが、その後町田市へ移られた額縁屋さんです。

以上で私が収集した版画の一部の紹介を終わらせていただきます。有り難うございました。

6. 幹事報告

齊藤万理子

今年最後の例会です。

本日は臨時総会で、合唱祭特別会計予算及び会則改訂の 2 議案が可決されました。ありがとうございました。会員皆様の総意に基づき、現状に合わせて運営されるよう内規等も整備していますので、後日お知らせすることになります。今後ともご協力をお願いいたします。

宮崎さん、東山さんが、このひと月のうちに天国

に召されました。お二方とも大変博識で、プロバス
クラブの知恵袋のようなお方でした。ご冥福をお祈
りいたします。

連絡事項は各委員長からお伝えしますが2点だけ
お願いしておきます。

(1)「広げよう 八王子 合唱の輪」小学校・中学
校合唱祭 (ECC) は来年3月20日に開催します。
会員全員に準備・当日の分担等のご協力を依頼しま
す。

(2) 新年会は1月例会時に行います。ビンゴゲー
ムの景品は予算が取れないので先月の例会でもお伝
えしましたが、本日お忘れの方は1月でも受け付け
ます。ゲームを盛り上げるよう商品を提供してくだ
さい。幹事報告は以上です。

気候の変動が激しく、ついて行けずに体調を崩さ
れる方も多くなりました。クリスマス・お正月と行
事が多く、無理なさらずプロバスイズムでお過ご
ください。

7. 委員会からの報告

(1) 交流担当

一瀬担当理事

来年の五所川原での全日本の総会・大会への参加
者に対する説明会を、12月5日に実施いたしました。
東京八王子、東京日野、北九州の3プロバスクラブ
が同道いたします。参加者は25名です。2泊3日
の旅程になります。

8. 全日本プロバス協議会

一瀬幹事

本年度の賛助会員の募集を開始いたしました。昨
年度は全国8クラブ、個人46名、75口の協賛金の
支援をいただきました。(東京八王子は28名、48口)。
年会費だけでは運営が難しい財政事情にあること
に変わりなく、本年度も是非会員の皆様のご賛同を
よろしく願います。飯田会員が責任者として
その任に当たっています。また、元旦の発行を
目指して全日本の会報誌「ひろば」の編集校正を行
っています。25日には印刷完了の見込みです。

9. 同好会報告

古典芸能鑑賞会

内山 雅之

古典芸能観賞会は平成28年(2016年)に発足
しました。古典芸能の範囲は広く、なかなか能楽以外

の分野にまでは進んでおりません。

現在までに、能楽では、船弁慶、道成寺、住吉詣
など11番、狂言5番、文楽1番を鑑賞しました。

鑑賞の仕方に定めなどありません。ご自分の興味
あるところから入るのが良いといわれています。そ
の手がかりとして、能面、装束、音楽、謡曲など
があります。

能面は男性用、女性用、その他の面がそれぞれあ
ります。面の傾きによる表情の変化も見どころです。

装束としては、何と言っても女性が扮する衣装に
は豪華な物が多いです。

音楽としては、笛、大鼓、小鼓、太鼓があります。
それと合唱隊がおります。地謡座に6人から8人の
能楽師が座り謡います。笛以外では、掛け声が入
りますので、場面に応じた変化が楽しめます。

謡ですが、面をつけると声がかぐもり聞き取りに
くい所があります。直面ですとやや聞き取りやす
くなります。謡を全て聞き取り理解することは難
しいのは事実です。謡には教則本があり、それには
抑揚の付け方など記載されています。

次に狂言ですが、物語の要素の強い芸能に発展し、
お笑い芸となったものです。言葉は室町時代の話し
言葉が使われるので、理解しやすいと思います。
流派としては、大蔵流では大蔵家、茂山家、山本家、
善竹家、和泉流では野村家、三宅家があります。

狂言の曲目数は全て合せると四、五百番にもな
ります。現在上演されるのは大蔵流で約二百番、和
泉流で約二百五十番と言われております。

文楽の魅力は何でしょうか。人形遣いによる人形
の動きや表情の変化でしょうか。或いは、目の前
にいるのは人形だから、より物語に入り込めるし、
別の世界へ連れて行ってくれるからでしょうか。また、
舞台の右端では、太夫と三味線弾きが浄瑠璃を演
奏するのを合せて鑑賞できるところでしょうか。

今後も、出来るだけ親しみやすい、理解しやすい
演目を選んで年に2~3回ほど企画します。ご都合
のつく日でありましたら、是非一度鑑賞していただ
ければと思っております。

10. プロバス賛歌

起立・斉唱

11. 閉 会

塚本副会長

本日の例会は全会員 46 名中 32 名の方の参加で開かれました。臨時総会を開き 2023 年度小・中学校合唱祭の予算、また、会則の一部改訂につき審議をし、予算成立により 2024 年 3 月 20 日の合唱祭実施日に向かって具体的に役割担当を含め準備を進めることになりました。ご協力をお願いいたします。また、互いに親睦を図る例会の開始時刻は理事会にて決定し進めることになりました。ハッピーコインは 16 枚、喜びや前向きな思いの声を頂きました。例会での卓話で「版画について」と題し、野口浩平会員による版画の世界の広さ、深さと共に版画の見方と収集の楽しさを話され、版画世界の魅力を会員に丁寧に呼びかけていました。全日本プロバス協議会への協賛金の呼びかけがありました。ご協力を！

これをもって今年最後の例会を終了いたします。一年間有難うございました。

研 修

「宇宙と縄文」

会員・研修委員会 池田ときえ

今期の研修は、相模原市立博物館と JAXA(宇宙航空開発機構)の宇宙科学探査交流棟です。横浜線で淵野辺駅からバスで 10 分弱、静かな緑地の道路をはさんで二つの施設が向き合っています。

まずは相模原市立博物館へ。相模原は八王子と地続きで、同じように歴史の古い地域です。相模川に沿って、農業、養蚕、軍都(現在は米軍基地)、都心を控えた住宅地と変貌してきました。再現された古い農家、各種の農具、蚕棚などまだ会員の記憶に残っている資料の展示も多く、館内のあちらこちらで話が弾んでいました。

お向かいの JAXA との連携事業もあり、はやぶさ 2 帰還の折は、カプセルやサンプルの展示が行われたそうです。現在も探査機の模型が鎮座しています。



なお歴史をさかのぼると、縄文時代の一大集落が確認されます。縄文時代中期(4500 年前)、関東地方に多く見られる土器形式に勝坂式がありますが、その出土地がここ相模原の勝坂遺跡なのです。今回は遺跡の見学はありませんが、機会があればぜひお出かけください。現地の管理事務所には、地元の縄文土器愛好会のメンバーが当時の焼成方法で復元した土器の数々が展示されています。当時の焼成方法とは、乾燥させた素焼きの土器を焚火の周囲 7~8メートルあたりに並べ、時間をかけて少しずつ火元に近づけて、最後に焚火の中に入れて焼き上げる、というもので何日もかかると聞きました。時間がゆっくり流れていた時代の話です。

今回ご案内をお願いした学芸員の領家さんは、考古学がご専門とのことで博識の方でした。

土器の真贋、豆粒の入った土器の紹介(これには豆博士、橋本鋼二会員が興味津々)、土器の修復方法の変遷、維持管理のご苦勞、と普通はなかなか聞けないお話をしていただき、大変勉強になりました。最後に「触っていいよ」の引き出しを開けてくださり、みんなで土器の破片の手触りを楽しみました。



昼食はお向かいの JAXA 職員食堂。周辺に食事処がないということもありますが、JAXA のみなさんがどんな食事をされているのか知りたいところでもありました。セルフサービスで、ほぼ学生食堂、560 円から 800 円まで。若い人向けに量は多め、から揚げは硬めでした。世界や全国の研究機関から研究者や学生を迎えているので、いくつかのテーブルは国際色豊かです。我々ロートルは券売機でもたついて、やさしい学生さんに助けられました。ありがとう！



1 時からの交流棟見学の前に、希望者は 12 時半から実験棟の見学ができます。探査機に先立って月面に着陸、自動走行をするローバと呼ばれる車両の実験場です。

広い部屋いっぱいには月面の砂丘を再現しています。白い砂は、山の砂を加工して月の砂と同じように粒子を丸く細かくしているとか。今回は残念ながら

ら肝心のローバは見られませんでした。前回の私の経験では、車輪型よりキャタピラー型の車両の方が月面の凹凸に対応しやすいと聞きました。1時から解説付きの展示案内です。1955年以降の日本の宇宙開発の歴史年表を元に、折々のトピックスを紹介していただきます。

印象に残ったのは、ロケット第1号といわれる「ペンシルロケット」。全長23センチ、直径1.8センチ、重さ200グラムの小さなロケットです。ここから始まって、「はやぶさ2」へつながるのかと感慨深く眺めました。ほかにも探査機「はやぶさ」や小天体「りゅうぐう」の模型、回収されたカプセルの実物、大きすぎて収まらない大気球など、興味深いものがたくさんあります。交流棟の入り口近く、野外に実物大のロケット大小2機の展示がありました。

液体燃料と固体燃料だそうですが、さて、どっちがどうだっけ。ロケットの進展に伴って様々な探査機が



打ち上げられています。それらの模型を見ると、どれも金ぴかのフィルムに包まれています。下見の時にKUMAの理事長で気球の専門家、並木先生にお会いしたのでお尋ねしました。光の反射で金色に見えるが本来は金色ではない。被覆材は宇宙空間の高熱に耐える特殊な樹脂で、複雑な凹凸面の接着はなんとマジックテープを使っているそうなの！では大気圏の探査に使う大気球は、とお聞きしたらこちらは耐熱の必要がないので普通の接着テープとのこと。ただしあの巨大さです。広い場所が無いと貼り合わせるのが一苦労とのことでした。そんな裏話もまた楽しいものです。つい

でお伝えしますと、下山会員を中心にプロバスクラブが応援している「宇宙の学校」を



主宰するKUMAの本部はここJAXA相模原キャンパスにあります。正式名称は「認定法人子供・宇宙・未来の会(Kodomo Uchu Mirai Association)」でKUMAです。ロゴマークのKはペガサス、空馬を意味しています。「宇宙の学校」はJAXAの宇宙教育センターとKUMAが連携して、各地域の主権者と協力しながら

行う社会教育プログラムなのです。宇宙工学の祖、的川先生の発案と聞いています。そのお手伝いに加わっていることの意義をあらためて思いました。

最後に、JAXAで現在進んでいる事業に火星衛星サンプルリターンミッションがあります。探査機MX(Martian Moons Exploration)で火星の衛星のひとつ、フォボスのサンプルを採集して火星の成り立ち、太陽系の歴史を探ろうというもの。2026年に打ち上げ、1年かけて2027年に軌道投入、2031年帰還という息の長い仕事です。私達もせいぜい長生きをしてその成果を待ちましょう！

注・相模原市立博物館 TEL 042-750-8030

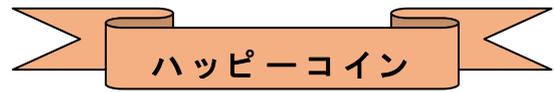
休館日 月曜日

・JAXA宇宙科学探査交流棟 TEL 042-751-3911

休棟日 不定期のためサイトで確認

ともに予約不要、入館料無料です。

一度では頭に収まり切らない展示の数々、休館日を確認して何度でもお出かけください。



◆来月成人の日(1月8日)JCOMホールで、3,461名の若者の前で、シニアダンディーズは「君が代」と「八王子市歌」を斉唱します。平均年齢が85歳になっても元気に歌えるところを若者たちに見てもらうのが狙いです。頑張って歌ってまいります。

岩島 寛

◆はや、今年も終わりです。年齢とともに月日のたつのが早く感じます。来年こそハッピーな年でありますように。

一瀬 明

◆全日本プロバス協議会の2023年度賛助会員の募集を始めました。昨年も多くの会員の方から協賛金をいただきまして改めてお礼申し上げます。本年度もよろしく願いいたします。

一瀬 明

◆全日本プロバス協議会2023年度賛助会員登録のお願いです。全日本プロバス協議会の財政基盤は極めて脆弱です。多くのクラブ、個人の皆様からの協賛金をお願いします。

飯田富美子

◆孫娘が来年大学を卒業します。希望の幼稚園の先生に就職が決まり、大喜びです。頑張っていて欲しいと祈っています。

飯田富美子

◆とりあえず、今年最後のワンコイン。

野口 浩平

◆「宇宙の学校」2023年のスクーリング終わりました。皆様のご支援のおかげです。感謝します。子どもたちの笑顔が浮かびます。

下山 邦夫

◆令和5年の最終です。

河西 成幸

◆八王子消化器病院に緊急入院12日間、本日無事例会参加です。今年は4月の心臓と、12月の大腸と、二度の命拾いをしました。

杉山 友一

◆第44回いちょう祭りは11月18日～19日の2日間大きな事故もなく無事に終了することが出来ました。ご多用中のところ、お手伝い下さいました野口、一瀬、杉田、泉、根本、田中、丸山各会員の方々誠に有り難うございました。また、D会場本部に塚本ご夫妻やたくさんのプロビアンの皆様のご来場に感謝します。2日間の来場者数を参考までにお知らせします。11月18日181,000人、11月19日225,000人、合計406,000人でした。

岡本 宝蔵

◆今年も残り少なくなりました。皆さん風邪を引かないように頑張りましょう。

有泉 裕子

◆「合唱祭」は企画段階をようやく終えることが出来ました。本日、予算案を審議して頂き、本番に向けた分担案を提示します。ご協力をよろしくお願い致します。

馬場 征彦

◆現在カラオケ同好会がコロナ禍で休会していました。コロナも収まってきましたので、再開したいと思います。やってみたいと思う人はこの指止まれ！で、5人集まれば、再開したいと思います。高取さんに代わり持田まで。生まれればHappyです！

持田 律三

◆久しぶりのゴルフで長竹CCで、41+43=84、Back Teeからで、このスコアができました。今年のベストスコアでした。Happy！！これで今年は打ち止めにしたのが良い気分が終われるのかなと思っています。

持田 律三

◆今年はプロバスの活動が少しずつ分かってきたよい1年でした。

泉 道夫

◆役目柄、今年は全国各地のプロバスクラブを訪問し懇親を深める機会を持たたことに感謝です。今後も元気で全国を回ることを期待して。

田中 信昭

私の一句（十二月の句会から）

河合 和郎

今年最後の句会。全員集合となって記念撮影。楽しい句会が月一回持てる幸せを噛みしめながらの一年間だった。新年も先ずは健康、そして健吟の一年でありたいと願っている。

薦もみち命の果てを炎の色に 飯田富美子

薦紅葉の美しさを詠んで秀句が生まれた。「炎の色に燃え尽きる命」と繊細な感性の生んだ名吟。

故郷へ続く冬空跨線橋 馬場 征彦

昨年12月、三鷹駅近くの跨線橋が閉鎖された。太幸治も親しんだという。遠い北の故郷を思う太幸の望郷の心を詠んだ。

薄日差す母娘三代障子張り 田中 信昭

新年を迎えるための障子張り。最近では障子そのものを見かけなくなった。従って揚句のような心温まる光景も俳句の世界のみとなってきた。

懐かしき人の増えたる冬銀河 池田ときえ

人は別れを重ねながら年老いてゆく。今年も天に召された多くの友人知己。今夜も友垣たちのきらめきが語り掛けてくる。

同窓会友と別れし時雨橋 下山 邦夫

歳を重ねると同窓会への参加者もめっきりと少なくなってくる。「また来年」と言葉を交わしつつ、淋しさの残る時雨橋での別れ。

リンゴ剥く老いたる妻の指の先 野口 浩平

リンゴを剥く妻の手。それを優しい眼差しで見守る夫。正に相思相愛の老境ここにありの幸せな一景。リンゴの唄が聞こえてくるような。

のつそりと猫の割り込む日向ぼこ 河合 和郎

日向ぼこは本当に気持ちが良いもの。猫殿も心得顔に二人の間に割り込んでくる。老夫婦と猫の幸せなひと時なのである。

編集後記

今月号は野外研修の記事などを含め、6頁となりました。

内山

